

在宅医療における薬剤師の役割

— 多職種連携を通して —

薬局実習 成果発表

大阪大谷大学 五回生 森本睦海

多種職連携と他種職連携

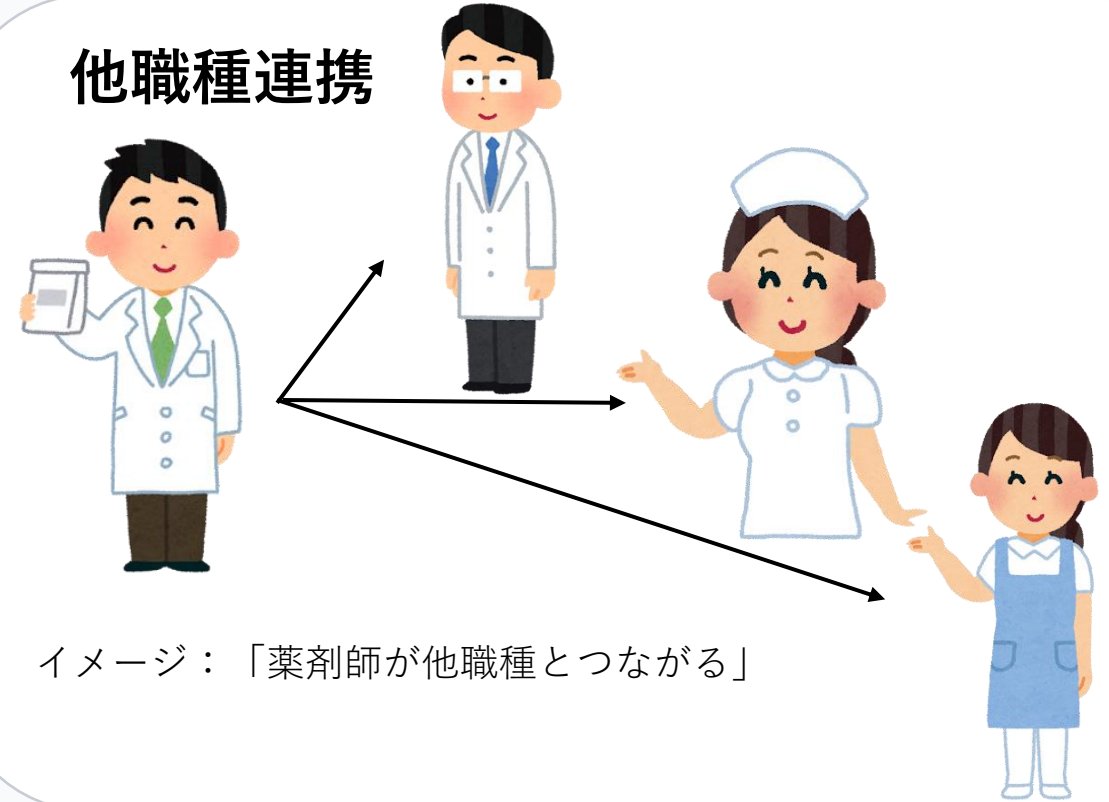
【多職種連携と他職種連携の違い】

多職種連携



イメージ：「患者をみんなで支える」

他職種連携



イメージ：「薬剤師が他職種とつながる」

今回の成果発表では、患者を中心に各職種が協働する「多職種連携」という視点で考える

【在宅医療を知る】

- 実習で在宅患者への訪問/服薬管理を経験
 - 往診同行やサービス担当者会議に参加
 - 在宅医療では、薬剤師以外にも多くの職種が患者を支えている
- 「**多職種連携の中で、薬剤師はどのような役割を担うのか？**」という疑問

【実習で経験した多職種連携】

①往診同行

②サービス担当者会議

③トレーニングレポート

④日常の情報共有

往診同行

【関わっている職種】

医師



看護師



事務長



薬剤師



サービス管理責任者



訪問看護師



ヘルパー



患者



【往診前準備】

往診の前に施設内の担当患者の残薬をチェック



残薬状況や患者さんからの相談内容をトレーシングレポートとしてまとめる



レポートを医師へ共有



共有した内容を元に医師が往診に利用



処方箋

【往診の実施手順】

医師が順に施設の患者さんに往診を実施する



看護師は医師を、
ヘルパーは患者さんのサポートを行う。



訪問看護師は施設での患者さんの生活状況を
医師に報告（往診に関わる内容を中心に）



薬剤師は医師の采配に合わせ、
処方設計のサポートを行う。



最後は事務長が往診の内容をまとめる。



薬剤師に処方箋を渡す。



【主に行われる関わり】

- ・ 医師、看護師、訪問看護師
患者を診て、今後の治療方針を決める
- ・ 医師、薬剤師
処方薬や定期薬についても方針を決める
- ・ 薬剤師、ヘルパー
施設での患者さんへの服薬介助について薬剤師からの助言
- ・ 薬剤師、事務長、（医師）
患者さんからの薬相談について薬剤師から報告
場合によっては処方変更にも関わる。

【往診中に起こるイレギュラー】

- 当日急に患者さんからの薬剤師への要望
- プラセボ目的の処方が出た時

【往診同行から学んだこと】

- 患者の健康状態は実際の施設での生活環境とともに捉えることができた
- 医師/看護師など、それぞれの職種が異なる視点から患者を見ていることを実感
- 薬剤師も服薬状況/薬効/副作用/残薬などの情報を把握し、共有することが重要

→多職種それぞれの視点を組み合わせることが患者理解につながる

サービス担当者会議

【関わっている職種】

デイサービス生活相談員



ショートステイ生活相談員



ケアマネージャー



薬剤師



患者



患者家族



【患者情報】

- 89歳 男性
- 自宅で独り居生活
- 普段デイサービスを利用





- 6月28日から7月21日入院



- 退院時処方として、
ラクツロース・シロップ60%を処方
- 77日分



- ラクツロースシロップ

効果：高アンモニア血症に伴う諸症状の改善



一包化されたお薬と
ラクツロース・シロップ60%を服用

【サービス担当者会議が実施された経緯】

【議題】

①デイサービスからショートステイへ変更

②シロップ剤の服用状況について

【デイサービスからショートステイへ変更】

希望：自宅での生活を継続

問題点：普段の食事や服薬が不十分

目的：独り居での生活の評価



【シロップ剤の服用状況について】

〈結論〉

シロップ剤の服用状況は芳しくない！



【薬剤師の介入要素】

- 薬剤師が毎週訪問
- シロップ剤を1日量や1回量に分割
- 服薬指導を実施
- デイサービスでも使えるように薬剤師が準備・管理



服薬状況の改善は見られなかった。



今回のサービス担当者会議を利用して
シロップ剤の服薬状況について議題にあがった。

【サービス担当者会議で決まったこと】

- デイサービスからショートステイへの一時的な変更
- ラクツロース・シロップ60%からラグノスNF 経口ゼリー分包12 g への変更（剤形変更については薬剤師から医師への確認後変更）



【サービス担当者会議から学んだこと】

- 薬からの視点だけでなく、生活状況や介護状況、家族の負担なども含めて考える必要がある
 - ケアマネジャーや介護職など、薬剤師とは異なる目線を持つ職種から学ぶことは多い
 - 薬剤師が把握した服薬上の問題を多職種と共有し、その上で医師への報告も重要
- 患者を「薬」だけでなく「生活者」としての目線から捉える必要性を学んだ

【多職種連携における薬剤師の役割】

- 患者やその家族、関連する多職種と医師をつなぐ
- 薬剤師が多職種から得た情報を薬学的に評価
- 必要な情報を適切な職種へ共有/フィードバック
- 「薬物療法」と「患者の生活」をつなぐ役割

→ **多職種をつなぐ「情報の橋渡し役」としての任を持つ**

【実習を通して得た成果】

- 実習前：薬剤師＝調剤/薬剤管理を行う職種というイメージ
- 実習中：多職種との関わりを通して、患者を支えるには情報共有が不可欠だと実感
- 実習後：薬剤師には薬物療法だけでなく、患者/多職種をつなぐ役割があると学んだ

→今後は「現場から情報を集める力」

「薬学的に考える力」

「わかりやすく伝える力」を高めたい！

【今後の課題】

- 患者や家族から必要な情報を聞き取る力を身につけたい
- 薬剤/疾患に関する知識をより深めたい
- 多職種と連携する際に分かりやすく情報を伝える力を高めたい
- 各職種の役割/専門性を理解し、多職種連携につなげたい
- 「患者を中心とした薬物療法」を実践できる薬剤師を目指したい

ご清聴ありがとうございました。